

## 和歌山県林業試験場の最新情報

# 「やまびこ通信」



第13号  
令和3年6月発行

### ■ 令和3年度試験研究がスタート

今年の4月から私を含め6名のスタッフが入れ替わり新たな体制での試験研究がスタートしました。私は昭和60年以来2度目の試験場勤務となります。当時と変わらないもの、また大きく変わったものなど様々ですが、研究テーマは大きく変わったものに入りそうです。当時と現在の研究テーマ比較をしたものが下表です。

研究テーマ比較

カテゴリ	令和3年	昭和60年
病害虫	マツノザイセンチュウ スギノアカネトラカミキリ カシノナガキクイムシ クビアカツヤカミキリ サカキ新種ヨコバイ 花木新たな病害	マツノザイセンチュウ スギノアカネトラカミキリ ヒノキ病害（うらみ、漏脂、心腐） 除草剤薬効（苗畑、林地）
木材利用	心去り平角開発（大径材） 重ね梁開発（大径材） シイフローリング利用	スギ心材色分析 材質調査（節出現、役物出現率）
林業経営		集約林業経営（海布丸太生産） 自動枝打ち機検証（使用特性）
特用林産	イタドリ栽培 林産物調査（サカキ、炭等）	シイタケ原木林育成（双幹・3幹） シイタケ原木他樹種利用（イ・カ・ヒ）
獣害	シカ捕獲ワナ開発	
品種	クマノザクラ増殖 精英樹・無花粉スギ選抜	

一律に比べることはできませんが、当時は優良人工林造成、シイタケ栽培、マツ枯れに係る研究テーマが主であるのに対し、現在は森林保全と活用、そして木材生産等に重点をおいた多様なテーマ設定に移行していることがわかります。またテーマによっては肅々と長年にわたりデータの積み上げが必要なもの、その時々で注目され対応が求められるものなど様々です。

地方の研究機関に求められることとしては、大学や国の研究機関の研究成果を現場で実証・移行させる役割、基礎的データの蓄積、そして現場から求められる多様な技術的課題への対応などがあげられます。いずれにしても時代の求めるテーマを先取りし、その研究成果が「その後」にどう活かされるかを考えながら研究することが大切です。

職員一同与えられた研究テーマを着実に進めつつ、様々な視点で新たな研究テーマについても模索していきたいと考えています。

本年度も当試験場へのご支援、ご協力よろしく申し上げます。（場長 大塚 康史）

### 令和3年度 農林水産業競争力アップ技術開発事業の新規2課題がスタート！

#### ■ 特定外来生物クビアカツヤカミキリの緊急防除技術の確立（R3～R5）

クビアカツヤカミキリは、モモ、ウメ、サクランボ等のバラ科樹木を加害する侵入害虫です。本県は全国有数の果樹産地で、また固有種であるクマノザクラも存在することから、本種の被害拡大により農業や生態系への影響が懸念されます。

そこで、今年度よりかき・もも研究所、うめ研究所との共同



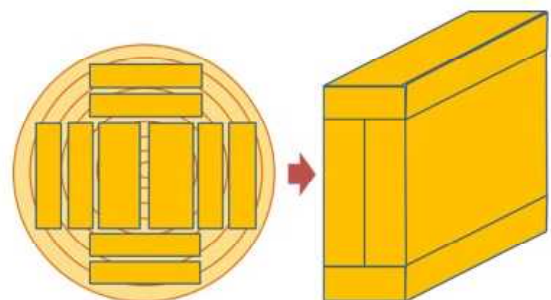
研究を開始しました。林業試験場では、サクランボ類における薬剤防除試験、産卵選好性などの生態調査を行い、防除技術の確立を目指します。（小田）

#### ■ 大径材から生産される製材ラミナを活用した紀州材接着重ね梁の開発（R3～R5）

県内の人工林は長伐期化によって原木の大径化が進んでいますが、その特性を生かす方法として、大径材から生産される製材ラミナの用途拡大を図ることが有効と考えられます。

また、「和歌山県木材利用方針」に基づく公共施設の木造化推進のため、中大規模建築物に対応可能な、紀州材を用いた大断面構造材等の開発が求められています。

そこで、大径材から生産される製材ラミナを活用した、品質の確かな接着重ね梁の開発を行います。（山裾）



接着重ね梁のイメージ

## 令和3年度 研究スタッフの紹介

### ■場長・副場長

場長 大塚 康史 副場長 東山 貢

### ■経営環境部

糸川 隆康：部長

法眼 利幸：獣害対策

的場 彬通：造林・育林

小田 奈津子：病虫害対策

大谷 美穂：造林・育林

(育休：山下 由美子)

<中辺路試験地>

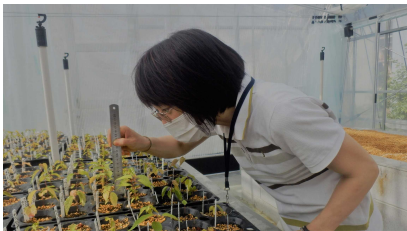
齊藤 雅一：育種・種苗生産

城戸 杉生：種苗生産

### 【トピックス -研究スタッフ紹介-】

本年度林業試験場へ配属となりました大谷美穂と申します。試験研究という仕事ははじめてで、手探りなことも多いのですが、周りの方々から学び吸収していきたいと思っております。

現在は新種クマノザクラの保全と活用に向けて、各地域のクマノザクラの特徴を把握し、どのような形質をもったクマノザクラを選抜していくかという研究を担当しています。よろしくお願いいたします。



### ■木材利用部

東山 貢：副場長(木材利用部長)

坂本 淳：庶務担当 林業普及指導員

山裾 伸浩：木材強度・木質バイオマス

一岡 直道：木材加工・保存・乾燥

### 【トピックス -研究の状況-】

大径材の特性を生かした心去り製材品の生産技術の確立を目的とし、県産スギ平角材(製材品)の曲げ破壊試験に取り組みました。その結果、静的ヤング係数は平均値7.33kN/mm<sup>2</sup>となりました。曲げ破壊強度の平均値は34.68N/mm<sup>2</sup>となり、基準強度22.2N/mm<sup>2</sup>を上回りました。また、静的ヤング係数と曲げ破壊強度には相関関係が認められました。今後、継続して試験データの集積を行い、強度特性の更なる解明に努めます。(一岡)



### ■特用林産部

坂口 和昭：部長

田中 作治：花木の栽培管理、紀州備長炭

杉本 小夜：山菜、きのこ、木の実

中谷 俊彦：研究業務の補助

### 【トピックス -研究の状況-】

サカキの葉に白点被害をもたらすサカキブチヒメヨコバイを防除する農薬として、粒剤



のダイリーグ粒剤(左)と乳剤のスミチオン乳剤(中)とアグロスリン乳剤(右)の3種類が登録され使用可能となりました。

また、防除方法をまとめた「サカキを加害する新種ヨコバイ(サカキブチヒメヨコバイ)防除マニュアル・改訂版」も作成したので併せて防除に活用してください。(田中)



### ～中辺路試験地だより～

#### ○少花粉スギ実生コンテナ苗木の育成始まる

令和元年度少花粉スギミニチュア採種園産種子35gを使ってコンテナ苗木の育成を始めました。

令和3年4月7日ハウス内の育苗箱へ播種。発芽した稚苗を5月12日600本、5月27日600本をコンテナ容器へ移植(計1,200本)。



播種後2か月経過した6月7日時点で苗高3cm前後と比較的順調に生育しています。育苗箱の残苗(約1,000本)は、順次コンテナ容器への移植を行い少花粉スギ苗木を育成していく予定です。(齊藤、城戸)

\*\*\*\*\*

#### 編集・発行 和歌山県林業試験場

〒649-2103 西牟婁郡上富田町生馬1504-1

TEL: 0739-47-2468 FAX: 0739-47-4116

\*\*\*\*\*

※『やまびこ通信』は「和歌山県林業試験場のホームページ」にもアップしています。